転倒予防と看護研究

泉　　キヨ子
（金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻）

このセミナーは「転倒予防における看護研究の動向を知り，実際の医療現場で研究的に取り組む方法について理解を深めること」を目的に2004年8月21日14時～17時に実施した。担当は筆者と平松知子講師，加藤真由美教員（現京都市立看護短期大学講師），正源寺美穂教員を中心に大学院生3名も関わった。内容は1．転倒研究の動向とアセスメントツールの概要（泉キヨ子），2．アセスメントツールの使い方について（平松知子），アセスメントツールのデータ入力について（加藤真由美），4．転倒予防のための看護師ができる運動プログラムと実際（加藤真由美）をプレゼンテーションし，その後デスカッションをした。すなわち，実践に役立つように，筆者らの日頃の転倒研究について紹介しながら，リスクアセスメント方法と予測妥当性や信頼性，どのようにデータ入力するか，介入の方法として運動プログラムを紹介した。

まず，転倒研究の動向とアセスメントツールの概要については，どのような視点から転倒の研究がなされているか，転倒における前向き研究と後ろ向き研究の意味，臨床で使いやすいアセスメントツールにはどんなものがあるか，何を基準に効果があるといえるのか，筆者らが開発したアセスメントツールはどんなものか，どのような臨床現場で使用し，どんな結論を得ているか，について講義した，アセスメントツールの使い方については，ツールを用いる前に注意する点として，同じツールでも入院時と月初めでは予測妥当性に違いが出ること，アセスメントの点数だけでなく，チーム間でツールの評定者間の信頼性を高めること，アセスメントツールの具体的なつけ方と活用についてわかりやすく説明した。アセスメントツールのデータ入力については，Excelを用いてのデータ入力の基礎を講義し，参加者も短時間であるが，コンピュータに入力できるようにもした。最後の運動プログラムはエビデンスのある先行研究の紹介から実際に療養型病床で作成したプログラムを紹介し，看護師の介入方法やその効果についても報告した。

当日の参加者は34名（応募は48名）であった。施設や病院で転倒予防に関わっている看護師が多かった。全体としての評価は良好であったが，1回に多くの内容を入れたので一部消化不良の人もいたのではないかと危惧した，特に，コンピュータに触れていなかった人にはこのあたりが難しかったであろうし，予測妥当性の計算を知りたい人には物足りなかったと思う。

今後，さらにこのような機会があれば，これらについてひとつひとつ丁寧に掴みながら，本会セミナーにふさわしい研究への高まりへ階段をさらに昇りたいと考える。

看護管理と研究 －看護記録と超勤の管理－

俵　　友　惠
（元　金沢大学医学部保健学科看護学専攻）

開催日時：平成2004年11月20日
土曜日14時～16時

参加人数：23名

セミナー内容

本セミナーは，2002年に当大学の学部生に指導を行いながらまとめた1つの看護管理に関する研究のプロセスを紹介し，看護管理という視点でいかに研究を行なうかについて提言を行った。

研究のプロセスについては，調査方法や分析方法など調査開始時点でどこまで検討をしておくのか，データを収集する際に本研究は観察を行っていたため何に配慮したのかについて研究計画書を提示し解説した。また，研究を論文としてまとめる際には，論理的一貫性があり，かつ分かり易く，看護への有用性は何かを振り返ることについて研究内容をスライドで提示しながら説明を行った。